

「清らかな住まい Salut の組織事例研究」
－精神障害をもつ女性に特化した就労支援の取組－

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
家族機能・社会臨床クラスター
吉川 陽子

精神科医と看護師によって設立された精神障害をもつ女性だけを対象とした就労継続支援 B 型事業所がある。設立目的は、性的外傷体験や心的外傷をもつ女性が、女性だけで安心して過ごせる日常生活の場を提供することであった。

その事業所では旧作業所時代は、女性ならではの手先の器用さを活かした「手芸」活動を行っていた。それから 14 年が経過した現在は「手仕事」によるもの（商品）づくりを通じた就労支援へ発展してきている。

本研究では、組織事例研究法を採用し、役員－職員－利用者の総勢 9 名にインタビューを行った。組織にかかわるひとびとの思いがどのように結集され、組織に影響を及ぼし、現在に至っているのかを“物語”として描き出すことを通じて明らかにし、これからの障害者就労支援の可能性についての提言を行うことを目的とした。

本研究によって明らかになったのは、性的外傷体験や心的外傷をもつ女性だけでなく、生きづらさを抱えた幅広い年代の女性がそのような場を必要としていること、また、「手仕事」から生まれた商品によって、ひととひとがつながり、いわゆる「支援者」だけでなく社会で暮らすすべてのひとびとが支援者になりうるということである。

精神障害をもつ女性だけの就労支援の取組は、現代を生きる女性が自由にのびのび生きるために必要な知恵と工夫を解き明かすものでもあり、暮らしやすい社会をつくり、地域で暮らすひとびとを元気にするのが、新しい障害者就労支援のカタチである。